

第4編

● 7月7日(火) 快晴

「大雪山・緑岳」(2019.5m)

・一昨年は赤岳から白雲岳、昨年は黒岳から北海岳と大雪山の山を登ったが、今年は緑岳から小泉岳を歩いた。大雪山は毎年来ているがいつも天気良く、今年も快晴で迎えてくれた。

・昨夜はよく寝たせいか3時頃に目が覚めうとうとし、4時に起床した。食堂には青年が一人いて、今日は天塩岳へ登るといふ。私より一足先に出ていった。私は4時40分に出発し緑岳の登山口、大雪高原温泉へと向かった。天気は快晴！5時半に到着したがまだ誰も来ていない。泊まり客と思われる車が10数台止まっている。

・準備を整え5時50分に登山開始、入山届を見ると5時に一人入っている。ヒグマの生息



＜早朝の大雪高原温泉＞

で有名な所なので鈴を鳴らしながら林の中の登山道を登る。林を抜けると突然目の前が一気に開け緑岳が眼前に現れた。ここが第一お花畑らしい、しかし一面すっぽり厚い雪に覆われていて花など全くない。それどころか雪上のトレースがはっきりしていないのでここを歩いてゆけばよいのかわからない。



＜第一お花畑＞

緑岳は目の前に見えるのに時々出てくるハイマツ帯に遮られて前へ進むことが出来ない。20分近くもルートを探してやっと第二お花畑へ出た。ここも一面の厚い残雪に覆われてルートが分からない。あちこちとルートを探し回ったが結局ハイマツ帯を突破できずギブアップ。あきらめて腰を下ろしパンを食べながら緑岳を仰ぎ見していた。するとおじさんが一人登ってきた。良く道を知っているら



＜そのおじさんについて行った＞

しく、何の迷いもなく雪溪の上をすいすい歩いてゆく。これ幸いとそのおじさんについて行った。ハイマツ帯を突破せず、旨くかわして雪溪上を歩いてゆき無事夏道にとりついた。快晴の真夏の強い太陽の光に照れされた雪溪上を2時間以上もうろうろ歩いていた。サングラスを持ってこなかったのが眩しく目を半開き状態にして歩き回った、雪目になるのではないかと心配したが幸い無事だったようだ。

・夏道にとりついてからは順調。太陽にジリジリと照らされながら山頂への岩場を登るに



つれてだんだんと視界が開けてくる。トムラウシとそれへつながる稜線が手に取るようにくっきりと見え、緑岳の裏側に隠れて見え

＜トムラウシとそれへつながる稜線が＞
なかった白雲岳から旭岳方面が見えだし、
山頂では 360 度の展望が開けた。

9時過ぎに山頂に到着した。

山頂には誰も居らず私一人。雲一つない快晴で360度の絶景を独り占め。雪溪で約1時間のロスをしたが、この贅沢な一時ですっかり疲れも忘れた。まだ早いので小泉岳方面へ行くことにした。広い砂礫の尾根道でなだらかなアップダウンが続く。



＜山頂には誰も居らず私一人＞



＜エゾオヤマノエンドウ＞



＜ホソバウルップソウ＞

道の両側にはエゾタカネツメクサ、イワウメ、エゾオヤマノエンドウなどが咲き乱れホソバウルップソウがちょうど満開の時期で一面に咲いていた。小泉岳まで行っても同じだし、小泉岳は一昨年歩いているので、20分ほど歩いた忠別岳方面への分岐がある鞍部で昼食をゆっくりとり、来た道を緑岳へ向けて引き返した。ここはちょっと道を外れた崖の面に



<分岐で引き返した>

エゾコザクラ、エゾノツガザクラ、チングルマ、エゾノハクサンイチゲが咲いていて思わず写真を撮りまくった。

帰り道はトムラウシ方面を真正面に見ながら、快晴の花一杯の尾根道をただ一人鼻歌混じりでルンルン。ふと足元を見ると何んと！チョウノスケソウが咲いているではないか！この尾根に咲いているとは聞いてはいたが、まさか本当に出会えたとは奇跡だ。それもちょうど満開の花盛り、心ゆくまで写真に収めた。これで緑岳は思い残すことはない。



<エゾコザクラ>



<チョウノスケソウに会った！>

・下りは雪渓で道を迷うこともなく、12時過ぎに無事下山、大雪高原温泉の駐車場に着いた。下りの雪渓で道路補修をしている人たちと話をし、「雪渓上に赤いベンガラでマークがしてあるが、それが目印で、それを辿ってゆけば道に迷うことがない」と教えられた。道しるべだなんて全く思いもよらず、なんで雪の上がこんなに赤く汚れているのだろうかと思いつつ歩いていたが、良く考えればなるほどと気が付くべきだし、登山者としてこんなルールを知らなかったことを非常に恥ずかしく思った。

・大雪高原温泉から国道に出るまで砂埃をまきあげながらの砂利持ち走行、車は砂埃で茶色に変身している。国道に出てから道路公団の駐車施設に寄って、バケツに水を汲んで洗車し汗だらけのシャツを水洗いし、昼食を食べ直してから層雲峡を通過して旭川方面に走らせた。



<12時過ぎに大雪高原温泉に着いた>

今日は当麻を宿泊地と定めた。昨年も泊まっているので状況は良く分かっているつもり。まず当麻のヘルシーシャトーに寄って風呂に入り汗を流して疲労を癒す。日差しが暑いので道の駅「とうま」に着くまでにまた汗をかいてしまった。すばらしかった今日の緑岳をビールと酒で祝い6時過ぎには夕食も完了。日が陰ると大分涼しくなってきた。通りがかった当麻町のおじさんと色々話し、ヘルシーシャトーのほう水道もあり宿泊には良いという情報を得た。



<道の駅「とうま」>

隣には福岡から来たご夫婦が止まり「九州の人は定年になったら北海道を夫婦でゆっくりするのが夢」と言う。利尻、礼文、羊蹄山と回り、8月頃まで居るそうだ。

7時半、外はまだ明るいが寝床に入った。

・夜中(12時ころ?)ものすごい雨が降り出した。すぐ小降りになったが。

● 7月8日(水) 大雨(どしゃぶり) 移動(旭川～天塩岳登山口)

・朝5時起床、昨夜の雨もあがって薄日が差している。天気予報では今日は天気が悪く雨が降り、明日は回復するとのこと。明日は予定通り天塩岳に登ることにして、今日は道の駅ラリーの整理をしよう。おにぎり、みそ汁、ゆで卵で朝食をとり、食料在庫の確認と整理を行った。飲み物は結構豊富で補充必要無いが、これから礼文島へ渡るにあたって食料の補充は必要、今日の旭川と明後日の稚内で調達することとする。

・9時過ぎに当麻を出て旭川へ向かった。すぐ隣の町なのに途中からものすごい雨が降り出した。スタンドに寄ってガソリンを入れ(126円)道の駅「あさひかわ」に来たが大雨で外にも出られないほどだ。やっとの事でスタンプを押して東川の道の駅へと向かった。道中前が見えないほどの激しい雨の中。ひがしかわ「道草館」でスタンプを押し、すぐ旭川へ引き返し、でかいCOOPで食料品の買い物をする。昼飯は道の駅「あさひかわ」のレストランで根菜カレー(680円)を食べた。ボリュームたっぷり結構旨くて満腹した。



<道駅「あさひかわ」>

・雨もだいぶ小降りになってきたので天塩岳をめざして出発した。今日の宿泊予定地は天塩岳登山口の天塩岳ヒュッテだ。101号線を北上、快適に飛ばし、於鬼頭トンネルを抜けてしばらくしてから天塩岳方面への道を鋭角に右折して入る。ここからポンテシオダムまでの7～8kmは細いながら舗装されていて、雨上がりの道を快適に走る。ダムを過ぎてからは一車線のダート約9km、雨上がりで水たまりだらけの道をひた走り天塩岳ヒュッテに3時前に到着した。二階建てのなかなか立派な小屋だ。北見ナンバーの車が一台あり、小屋には男性が一人、「天塩岳は昨日登った」というのに何故か今日も滞在するらしく炊事をしている。今まで雨は止んでいたが現在4時、また雨が降り出した。群馬伊勢崎の車で男性一人到着。続いて札幌の車で男性2人やってきた。今夜はここには私を含めて男性5人が集まった。皆さんヒュッテの中へ入っていったが、私は車の中で寝ることにする。このほうが小屋で寝るよりよっぽど静かで快適だ。



<天塩岳ヒュッテ>

・ソーセージ3本、豚しゃぶにサラダ、ビール2缶にパンと牛乳で夜食をすませた。今まだ5時50分、外は明るいが明日の天気信じて寝にはいった。夜中にトイレに出たら満点の星空だった。明日は期待できる。外は風がうなっている。

● 7月9日(木) 強風・霧 「天塩岳」(1557.6m)

・昨夜は満点の星空、今日はすばらしい晴天かと思ったのだが、朝3時半に目が覚めて外を見るとどんより曇ってその上強風が吹き荒れている。でも天気予報では、昼間は日が差すと言っている。とにかく天塩岳に登ることにした。

・牛乳に照り焼きハンバーグで朝食をとり、私が一番早く5時半に出発した。上空は強風のため雲の流れが速く、雲が薄くなったり厚くなったりして変化が激しいが雨は降らない。風が強いので風で飛ばされる危険のある帽子はやめタオルで頬被りした。雨は降っていないが一面の霧で視界は悪い。アプローチの林の中の道際にはどういう訳かオドリコソウが群生して咲いている。ムグラなどいろいろな花を撮りながらゆっくりと歩いていると、



<なぜか オドリコソウ>

後ろから伊勢崎のおじさんが(42歳だそう)やってきて抜いていった。前天塩岳の登りはかなりの急登、特に頂上付近はガレ場の吹きさらしなので風当たりがひどく、風に飛ば

されないように背を低くし、霧で道を間違えないように赤ペンキの石をたよりに必死で登った。前天塩岳の山頂は霧で視界は殆ど無く、強風に飛ばされそうで立っているのがやっと。伊勢崎のおじさんとは違うおじさんが一人いたので、道標にしがみついで写真を撮ってもらった。おじさんと一緒に天塩岳へと向かった。前天塩岳から天塩岳への尾根道は前天塩が風を遮ってくれて風もあまりなく、ヨツバシオガマ、コバイケイソウ、ウコンウツギなど花が多くて気持ちの良い快適な道だった。これで晴れていて展望もあつたらさぞすばらしい道だろうと想像しながら歩いた。



<前天塩岳山頂>



<山頂近くのお花畑>



<山頂は霧と強風>

・天塩岳の山頂近くにお花畑がありウサギギク、エゾカンゾウ、ヨツバシオガマなどが美しく咲き競っていた。ここは山陰で風が無くゆっくりと写真撮影を楽しんでいた。するとさっきのおじさんが山頂から戻ってきて「じゃお先に」と言う。「どこへ行くの?」「天塩岳ヒュッテへ下るよ」「ちょっと待って! 方向がちがうよ」と制止して、天塩岳を越えて向こうへ下るように教えたが、すぐには納得せず、文明の利器「GPS」をさかんに確認している。私は花の写真も取り終わり強風の吹き荒れる天塩岳の山頂へ向かった。するとおじさんが追いかけてきて一緒に山頂に立った。道が違っていたことが確認出来たのだろう、私がいなければ浮島峠方面に下ってしまうところだった、よかったね!



<天塩岳山頂>

山頂ではまた道標にしがみついで写真を撮ってもらい、おじさんはさっさと下っていった。わたしも強風を避けるようにおじさんの後を追って下り西天塩岳ヒュッテにたどり着いた。なかなか立派な小屋で、戸をあけて中に入ると伊勢崎のおじさんが食事をしていた。いろいろ話をしながら私も昼食を取った。伊勢崎のおじさんより先に出たのにまた途中で抜かれ、後を追いかけてながら12時半に天塩岳ヒュッテに無事下山した。結局雨こそ降られなかったが、終始濃い霧と強風の中での苦しい山行だったので、もう一度登り直さなければならない山になった。

・駐車場に着いた途端に大雨が降り出し炊事場へ雨宿り。何というラッキー！

炊事場で泥だらけになった靴とゴアテックスを洗い、大雨の中剣淵に向けてヒュッテを後にした。山を離れるに従って雨も上がり天気も良くなってきた。天気予報通り平地では日中は晴れ間が出ているのだ。国道に出ると真夏の太陽がガンガンと照りつけていた。

・道の駅「絵本の里けんぶち」に寄った。なかなかきれいで可愛い駅だが客が全然居ない、ガラガラ。

・次は「もち米の里☆なよろ」：今年新しく開設された駅だけにきれいな駅だ。

・さて今日の宿泊予定地、道の駅「びふか」へと国道40号線を北上する。温泉もありレストラン、コインランドリーもあるというので期待したが、古いこともありそれほど大きくもなくきれいでもない。しかし裏に回ると立派な入浴施設と大きなキャンプ場があり、ここはなかなかすばらしい。風呂（400円）に入ってから駅に戻り（キャンプ場は有料で高いので泊まらない）夕食。松前漬けとソーセージ、ビールで乾杯、遊びに来た土地の

おじさんと野菜たっぷりのラーメンを食べながらいろいろお話しし楽しい時間を過ごした。この地も人がどんどん減っているようだ。

・近所（北の方）で火が発生したのか、消防車が2台フルスピードで走っていった。続いてパトカー、救急車が飛んでいった。ここからは火など全く見えない。

・8時前に床に入った。気温がグングン下がり寒くなってきた。



<道の駅「けんぶち」>



<道の駅「びふか」>

● 7月10日(金) 雨 移動(美深～稚内)

・朝4時起床、空はどんよりと曇っている。朝食をとり7時前に駅の駐車場から裏のキャンプ場へ移動した。まずキャンプ場の管理棟にあるコインランドリーで待望の洗濯に取りかかった。100円で洗濯が完了、続いて40分100円の乾燥機に突っ込んだが、乾燥が不十分なのでさらに100円30分追加して乾燥も完了した。手洗いの洗濯と違いコインランドリーはやはり出来上がりが気持ち良いね。



<美深キャンプ場>

・とうとう雨が降り出してきた。さてこれからどういう行動をしようか。天気予報では低気圧がちょうど真上にあり今日一日中雨模様だ。昨日天塩岳へ登っておいて良かった。

キャンプ場の奥にチョウザメ館というチョウザメ専門の小さな博物館がある。9時の開館を待って入ってみた。入場無料でチョウザメの生態や実際の飼育場が観察できてなかなか面白いのに入場者は誰もいない。それにしても何故美深がチョウザメなのだろうか？



<チョウザメ館>



<道の駅「おといねっふ」>



<道の駅「ピンネシリ」>

・9時半過ぎに雨の美深を後にして国道275号線を北上し音威子府に着いた。道の駅「おといねっふ」は小さい駅で、10時開館だが食堂が11時開館なので正面玄関の扉は11時まで開かず、もう10時をすぎているのに脇にあるトイレの入口から館内に入るという変な駅だ。さらに国道を北に向かって走りピンネシリ(敏音知)に寄った。道の駅「ピンネシリ」は美深と同じように入浴施設とキャンプ場が併設された道の駅だが、規模は美深にくらべて

一回り以上小さい感じで、客は少ないし雨は降っているし、かなり寂しい所だった。

・国道275号線をさらに北上して浜頓別から海岸線に出て猿払に向かった。猿払は一昨年に泊まった道の駅で、広い海岸線の荒野にホテル、レストラン、入浴施設がぼつんと建っている寂しい光景は記憶と変わっていない。今日は風が強く、冷たい雨が降っているので一層寂しく見える。ちょうど昼飯の時間なのでレストランで牛丼を食べた。猿払はホタテが有名でホタテ料理がいろいろあったが、牛丼が旨そうだったので牛丼を食べたがあまり旨くなかった。

ホタテを食べれば良かった。満腹になったところで稚内へ向けて出発した。

・途中宗谷岬を通ったが、ここは一昨年に歩いており、今日は雨が降っているので車の中から窓越しに写真を撮っただけで通過し稚内へと急いだ。まずフェリーターミナルへ行って明日の礼文島行き第2便、7時半発のフェリーの予約をした。フェリー埠頭が隣の埠頭に移動したのでターミナルの位置も一昨年と変わったところに新築されてきれいになっていた。これで明日から礼文島での生活が始まる。



<道の駅「さるふつ公園」>



<冷たい雨の降る宗谷岬>

スーパーCITYに行って礼文島生活に備えてビール、肉類、野菜、ご飯類などの買い物をした。ガソリンも満タンにしてから今夜の宿泊地探した。稚内公園、ノシャップ公園など見て回ったが結局町の中にありフェリーターミナルにも近い駐車場を宿泊場に決めた。ここは一昨年に車を止めたところで今年は泊まる。もちろん宿泊車は私だけのようだ。今5時半、ビールを飲みながら日記を書いている。スーパーCITYで買ってきた鮭弁当で腹を満たし就寝。7時を回っているが外はまだ明るい。冷たい小雨が相変わらず降り続居ている。明日は礼文島だ。